

自治連よなご

第60号

令和3年(2021年)10月1日発行

発行 米子市自治連合会

(事務局 米子市総合政策部地域振興課内)

編集 『自治連よなご』編集委員会

米子市自治連合会 令和3年度定例総会開催

新型コロナウイルス感染拡大が懸念されているなか、感染防止に努め、5月15日(土)米子市文化ホールを会場に定例総会を開催しました。表彰や事業計画等の決定、新年度役員選出などが行われ、今年度のスタートとなりました。



○表彰状贈呈 (自治会長20年在任) 1名

義方地区 義方町自治会 杵築 俊朗 氏

○感謝状贈呈 (自治会長10年在任) 7名

啓成地区 富士見町自治会 圓岡 倫生 氏

義方地区 立町四丁目自治会 佐々木克秀 氏

義方地区 旗ヶ崎一区自治会 岡本 道行 氏

住吉地区 安倍自治会 尾崎 学 氏

車尾地区 車尾三区自治会 内田 孝一 氏

加茂地区 加茂一区自治会 永東 清 氏

福米西地区 下谷四区自治会 端下 良則 氏

ごあいさつ

今年度の定期総会に於いて、米子市自治連合会会長に選任いただきました県地区の奥田 登でございます。役員を代表しまして、ご挨拶申し上げます。昨年からの新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない、予測不可能な変化のただ中で、これまで体験したことのないような緊張を強いられる現在。そんな不安な日々でも前に進もうと、それぞれがコロナとの付き合い方を模索しながら、大変厳しい環境の中で自治会活動を行っておられることと思います。また、大雨や土砂崩れの自然災害も起こり、避難所の開設においても「三密」を避けての新しいスタイルを定着させる難しさも感じています。さて、このような状況の今、私たちは『住み続けられるまちづくり』のため、SDGs(持続可能な開発目標)に積極的に取り組む時を迎えています。SDGsはすべての主体が取り組まなければならない世界の約束です。経済・社会・環境の調和を図りながら地域の理想を実現する手段とし

米子市自治連合会会長 奥田 登



て活用し、自分たちの地域の『今あるもの』に改めて気づくよう視野を広げることで、地域を元気にするための一歩にしていきたいと願っています。そして、地域の意識が変われば、そこで大切にされた子どもが未来を変えていく。地域のことが自分事になり、いつのまにか『まちの担い手』になっていた。そんなきっかけになる活動を続けていきたいと思います。SDGsの『住み続けられるまちづくり』の目標は、こんなところから実現できるのではないのでしょうか。今後とも会員の皆様と連携し、また情報の共有を行い、自治会活動を充実させていきたいと思っています。さらなるご理解とご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「SDGs」とは、『持続可能な開発目標』と訳されている。2015年の国連総会で採択され、貧困や飢餓、教育、男女の平等、生態系の保全など17項目の目標を掲げている。目標の下には、具体的な数値目標などを示した169のターゲットがある。

令和3年度 春の叙勲 旭日単光章受賞

明道地区 長砂町自治会 会長 大櫃 興紀 氏

義方地区 義方町自治会 会長 杵築 俊朗 氏

魅力いっぱい！地域活動

桜台祭の紹介

大和地区桜台自治会 会長 岩崎 功

桜台は米子市淀江町佐陀にあり、場所の目印はお菓子の寿城です。昭和50年（1975年）に桜台団地の造成工事が完了し入居が始まっています。現在の桜台自治会は5班編成で加入世帯は114世帯となっています。近くに佐陀神社がありますが、桜台に氏神社はありません。桜台祭は神様とは関係のない地域おこしのための桜台住人祭です。

当自治会の大きなイベントである桜台祭も第38回を迎えています。桜台祭は毎年7月中頃の土曜日に開催していますが、昨年は新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止となりました。今年の桜台祭は時期をずらして開催する予定で動いていましたが、現在もコロナ感染症が収束していない状況のため、残念ながら中止と判断をいたしました。この祭は、小さい子どもからお年寄りまで地域住人が一堂に会することの出来る大切な地域社会福祉活動だと捉えています。

毎年の桜台祭の準備は、祭実行委員長を決めて、第1回祭実行委員会の開催から始まります。この祭実行委員会でその年のイベント内容等を検討して決めていきます。屋台（焼きそば・かき氷・飲み物等）、子ども夜店、子ども会の出しもの、大人の出しもの、外部のアーティスト・ミュージシャンへの出演依頼、舞台の設営も自前で行います。おまけにドローンと花火も上げちゃいます。地域の自治会の先達の先輩方が当地域に住む人のために行ってきた事業行事が歴史を持って引き継がれて来ています。新型コロナウイルス感染が早く収束し、来年こそは桜台祭が盛大に開催され、地域の皆さんが元気に、明るく、楽しく、笑顔で活動できます様に願っています。



「和田町地域ケア会議」について

和田地区自治連合会長 田邊 忠雄

高齢化社会の問題点として日々の買い物、通院、介護支援、認知症など様々なことがあります。高齢化率40.2%の和田町ではこの問題に10年以上前から直面していました。そんな時（平成27年）、米子市や弓浜地域包括支援センターから「地域ケア会議」を提案されました。

地域ケア会議とは、要約すると「住み慣れた土地で最後まで安心して暮らせるまちづくり」だと理解し、同年9月に『和田町地域ケア会議』を立ち上げました。自治会長、民生児童協議会長、地区社会福祉協議会長及び弓浜包括支援センターが中心となり自治会、民生委員、在宅福祉員、弓浜包括支援センター職員のほか和田駐在、米子市（長寿社会課）、市社協、地元介護施設など50余名で構成され、2か月毎に開催しています。

★ケア会議で実現したこと

- 「朝市」：7月から8月の間、土曜・日曜に地元や他協力者が作った野菜を持ち寄って朝市を開きます。
- 「ショッピングリハビリ」：平成27年米子市の支援事

業として地元介護施設「ふる里」と共同で実施しています。健康体操と買い物を組み合わせたもので、月2回近郊のスーパーへ買い物に出掛けます。地元からはボランティアが付き添います。上記2つは高齢者の買い物困難者を対象とした事業です。

○「見守りマップ」：在宅福祉員の高齢者見守りを更に進化させ、毎回ケア会議で見守り情報を交換します。現在、見守りの対象者は、独居高齢者以外に災害時の要支援者、障がい者、認知症者など6区分あり、ケア会議ではグループ毎に情報交換を行います。問題点が有れば包括支援センターの方とその場で対応を話し合います。

★これからのケア会議の方向

ケア会議は今年で6年目を迎えますが、残念ながら孤獨死や認知症行方不明者を食い止めることは出来ません。7月には米子市まちづくり活動支援交付金を頂き「見守りマップ」を新調、よりきめの細かい見守り活動に力を入れて行きたいと思えます。



「安心葬儀」“家族の絆を大切に心のこもったお手伝い”

ぴあべール

令和3年12月河崎地区に
新会館オープン予定

ぴあべール米子
米子市両三柳103

☎39-2222(代)

ぴあべール・はまゆう
米子市富益町2258-1

味噌らーめん専門店
味噌屋 唐崎商店



<http://www.karasaki-shouten.com>

「青色防犯パトロール」で 地域の「安全・安心」を

住吉地区自治連合会長 新見 博士

住吉地区は、世帯数約5,500世帯、人口約12,000人を数える米子市でも大きな地区です。自治会数はわずか12自治会と少なく、読んで字の如く「住んで吉し」のまとまった地区です。

当地区も、他の地区と同様少子高齢化の進む中で、住吉小学校の児童数も減少の途にあります。こうした社会情勢の中で、児童・生徒に関わる不審者情報の増加と事件・事故を未然に防止するとともに、益々進むであろう高齢者の「安全・安心」をどうしたら守ることが出来るのかと、日頃から話し合っていた当時の交通安全住吉支部長さんに、ふと「青パトが出来ないだろうか、それには車が無ければ・・・」と何気なく話したところ、支部長さんから「住吉地区の交通安全のパトがある。年間の稼働は限られている。有効活用したらいい」とのお話を頂き、活用出来るならと思い立ったのが「青パト」の発端でした。そこからは、公民館長、各自治会長、公民館運営協議会長、青パトに協力いただける各団体の長の皆さんに働きかけ、「青パトプロジェクト」を立ち上げました。発足ま

でに必要な手続き・書類等米子警察署生活安全課担当官に相談、指導を受ける中で、米子警察署長から「防犯活動団体の委嘱状」の交付を受け、鳥取県警察本部長から自治連合会が「自主防犯パトロールを実施することの出来る団体であることの証明書」の交付を受けました。現在、青パト隊員55名が青パトの講習を受講し、週3日隊員2名1組で登校道路を主体に「児童・生徒の安全・安心、更に高齢者の見回りを含めて、住吉地区の安全・安心を守る」という強固な意志をもってパトロールを行っています。パトロールを始めて感じることは、地区内で発生していた不審者情報が少なくなり、児童生徒からも青パトを見ると手を振る等隊員との交流が芽生えています。今後、地域の皆さんによりご理解と協力を得るために、隊員の活動状況等を「青パトだより」として定期的に発行してまいります。



加茂地区での子どもたちの 育成に対する取り組みについて

加茂地区自治連合会長 加藤 朗

加茂地区では平成27年より、夏休みの最初の日曜日に地域で暮らす子どもたちの交流を促進し、併せて世代間の交流を深めるために各団体との連携に取り組みながら、地域の活力の増進を図ることを目的として「夏休み子ども祭り」を開催している。

公民館の前庭に地区自治連合会をはじめ、消防団、有志の皆さんで手作りのプールを設置し、PTA、校区民協など関係団体の協力のもと、多くの子どもたちに楽しんでもらっている。また同時に、子ども活動支援団体、青少年育成会、子ども会連合会などによる流しソーメン、手作り・遊びのコーナーの開設など、各種の催し物を子どもたちに提供してもらい、子どもたちの交流の促進に

役立っている。このほか子ども活動支援団体による教室を月に1回程度、公民館において開催し、自由工作、お茶会、クリスマスリースづくりなど、時期にあわせた活動を継続している。

これとは別に、子どもたちの安全、安心の取り組みとして、平成18年に「加茂地区防犯パトロール協議会」を設立し毎日、子どもたちの下校時間に青色パトロール車により、通学路を中心として見守り活動を続けている。



エアコン 販売 取付工事

K M 設備

お気軽に
ご連絡ください。

米子市淀江町佐陀桜台(自治会内)
電話 090-2296-5163(菅)



山陰のランドマークホテルとして
より快適・高品質なサービス
を提供いたします。

●宴会ご予約
0859-36-1112

●レストラン
日本料理 雲海
TEL: 0859-36-1116
カフェ・イン・ザ・パーク
TEL: 0859-36-1113
アトリウムラウンジ
TEL: 0859-36-1114

ANAクラウンプラザホテル米子
〒683-0824 鳥取県米子市久米町53番2号
Tel 0859-36-1111 Fax 0859-36-1115
www.anacpnyogo.com

魅力いっぱい！地域活動

子どもは地域の宝！みんなで子育て！

巖地区主任児童委員 黒田美万子
 巖ボランティアひまわり会会長

巖地区の子ども達の活動は、青少年育成会が主体となり、地区のボランティアグループ(ひまわり会)、民生委員、米子市のジュニアリーダーにもお世話になっています。

活動内容は「わかとり学級」(小1～3年生)は夏休みに講座を5回開き、料理・工作・ゲーム・社会学習など班に分かれて協力しながら楽しめます。

「たんぼぼクラブ(小4～6年生)は1年間を通して5～6回開講し、料理・ラジオ製作・ポーセラーツ・お茶会・ボーリング等、地域の方に指導をお願いして楽しめます。

時にはジュニアリーダーさんと一緒に企画・運営して公民館祭でイベントも行いました。その他、防災・防犯の学習は毎年行っています。

大切な地域の行事として、「わら馬作り」「賽の神祭り」があります。わら馬作りは、親子で参加して自分の大切な馬を藁で作ります。高学年になると、ひとりで作れる子もいます。

賽の神祭りは、小学生を中心に、お餅をついてお祝いします。子育てサークルの幼児さんや弟妹も一緒に参加します。

新型コロナの影響で、昨年度は子ども達が楽しみにしていた行事や活動は、すべて中止となり、今年度も目処が立っていません。

この様な状況の中で活動しているのは、巖の子育てサークル「だんごサークル」です。感染症対策をしっかり取りながら、月2回の活動を行っています。大人はマスクの着用、消毒はもちろん、お部屋の換気、密は避け、おもちゃの消毒、マットの洗濯など、みんなで出来る対策を話し合いながら、親子で体操・手遊び・読み聞かせなどお母さん方が少しでもホッとできる場所を提供して、子どもの成長を見守り、子育ての情報交換を楽しんでいます。

早く通常の活動が出来事を祈っています。



がいな祭 募金へのご協力ありがとうございました。

米子がいな祭の開催にあたりましては、毎年格別なるご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。さて、「第48回米子がいな祭」は新型コロナ感染症拡大により我慢を強いられているなか、出来る限りの感染予防の対策と米子の街を元気づけたい思いで開催することといたしました。

本年も自治会を通じて変わらぬご支援を賜り、2,149,120円(8月末日現在)もの募金をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。



啓道成 明将 就方 義吉 住尾 車茂 加崎 河崎 福生 福生 福米 福米 彦西 彦津 崎津 大篠 和田 富益 夜見 成実 尚徳 永江 五千 巖石 春高 大日 大谷 奥田 岩内 渡辺 山内 岩崎

◎会長 岩崎 功
 ◎副会長 山内 右二 渡辺 和夫 奥田 登 大谷 利男 内藤 英二 依俊 戸田 隆雄 福島 雄三 中田 薫 脇坂 喜啓 松本 眞 永見 修司 田邊 忠雄 高橋 誠一 武良 賢治 西尾 陸夫 近藤 芳男 上田 康則 福景 順一 大畑 憲 足芝 通秋 加藤 朗 高野 和男 新見 博士 杵築 俊朗 平井 道彦 大櫃 興紀 田村 保之

令和三年度
米子市自治連合会
 常任委員(各地区自治連合会長)
 のみなさん

編集後記

新型コロナウイルス感染症が発生し一年半が経過しました。現在も鳥取県版新型コロナウイルス対策が実施されており、昨年度は各地区自治会において夏祭りなど様々な行事が中止に追い込まれました。

地区の方々をはじめ子どもたちが楽しみにしていたのに残念な思いです。地区の方々の交流の場がなかったこと寂しく思います。交流の大切さを痛感しました。

来春発行の「自治連よなご」誌面には各地区の行事が載せられますようコロナの終息を祈りたいと思います。今回記事をお寄せいただいた皆様にお礼と感謝を申し上げます。

大変厳しい環境の中で自治会活動となりますが、今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。